

方位を冠した公園

福岡市内には方位を冠した公園が3カ所あります。東公園、西公園、南公園です。東区、西区、南区にあるからと言う事で名称が決まったと思われるかもしれませんが、東公園は博多区、西公園、南公園は中央区にあります。何を基準に決められたのかという点と現在の天神や中州を中心と考えて、地理的に決まったのではないかなという事です。福岡市が政令指定都市になった後に公園が出来ていれば、あるいは名称も博多東公園、中央西公園、中央南公園になっていたかも知れません。

◎東公園(県営公園)

場所は福岡県庁の対面、および十日恵比寿神社が隣接しております。道路事情にもよりますがデュオ柏原から直通バスで1時間～1時間30分位は掛かると思われます。(柏陵高校～県庁前下車)デュオ柏原より一廻り大きい位の公園で中心には亀山上皇銅像が建立されております。亀山上皇と言われても・・・、銅像下部にある説明板には以下のように記述されております。

“13世紀後半の元(モンゴル)軍の来襲の際に「我が身をもって国難に代わらんと伊勢神宮などに敵国の降伏を祈願された亀山上皇の故事を記念し福岡県警務部長(現在の警察署長)だった湯地文雄氏等17年有余の尽力により明治37年(1904)元寇に縁のこの地に建立されました。高さ約6mを誇るこの像の原型となった木彫像は当時高村光雲の門下で活躍していた博多櫛田前町生まれの彫刻家山崎朝雲の代表作の一つで現在は筥崎宮の奉安殿に安置されています。”



亀山上皇銅像



ツツジが咲き乱れる春とでは景観が一変します。階段を上り中段や頂部から眺めると又、趣が変わります。



花は咲いておりませんが梅林です



百日紅(サルスベリ)の花

1周760mの園内をジョギングしている人も見かけます。テーブルの前の椅子に腰掛けてパソコンを操作している人も居ます。ベンチに腰掛けて休息されている人もいます。思い思いの過ごし方で公園を楽しみリフレッシュされている様です。

百花繚乱とは行きませんが、春になればツツジが咲き、華やいだ雰囲気になります。その他にも梅林、サルスベリなどが咲き季節を楽しむことが出来ると思います。



十日恵比寿神社 正面鳥居



十日恵比寿神社東公園側 出入り口

お正月に十日恵比寿に参拝に行かれる方は公園に立ち寄られては如何でしょうか？ 十日恵比須神社に参拝される方の通行路になっていると思われます。

県庁が開庁している平日に行かれれば、県庁の11階展望室から東公園をパノラマで見ることが出来ます。



福岡県庁 11 階展望台からの眺望



日蓮証人銅像

東公園案内図の左側に日蓮証人銅像があります。
日蓮証人銅像は高さ約 10m、亀山上皇銅像の高さ約 6 m
で、建立されたのはどちらも明治 37 年です。明治時代は
高い建物も廻りにはなく遠くからでも見えたと思います
当時はランドマークになっていたのではないかと思います。

◎西公園(県営公園)

デュオ柏原から直通バスがありませんので乗り換えて大濠公園で下車して北側に 10 分
程歩くと公園に着きます。丘陵地にありますので階段を上るか、横の坂を上るかしなければ
公園には入れません。公園に着き階段を上りきると黒田如水と黒田長政が祀られた光
雲(てるも)神社が正面にあります。

この公園はデュオ柏原の 3 倍ほどの広さの公園です。



桜の名所であるこの公園は皆様が一番良くご存知の公園だと思います。
西公園に行かれても桜しか見たことがない方は、次回お出かけの際には各展望台に行かれて博多湾を眺めて景観をお楽しみ下さい。特に天気の良いと西側展望台からの能古島、玄海島、志賀島と空と海の青色とのコントラストが絶妙だと思います。



光雲神社から大濠公園方面を望む



光雲神社の鳥居



光雲神社



東展望台藤棚



東展望台からの眺望
中央に見える小さな突起がマリントワー



中央展望台



中央展望台からの眺望



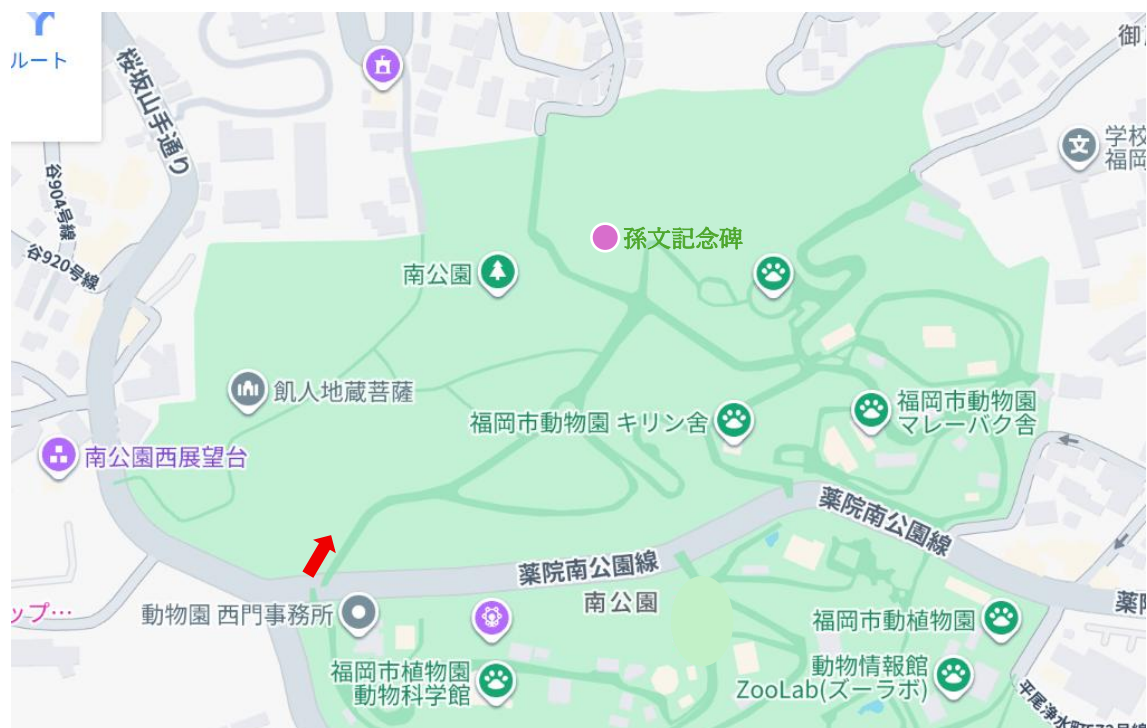
西展望台

西展望台からの眺望
能古島 玄海島 志賀島

◎南公園(市営公園、ここだけが市営公園です。)

南公園と言ってきましたが実は福岡市動植物園も南公園の中にありますが、今回は薬院南公園線(市道)北側の無料公園をご紹介します。動物園のサル山やキリン舎等敷地内に入り込んで来ていますので、広さは西公園と同じくらいの広さではないかと思われます。

デュオ柏原から直通バスで30分前後でしょうか、上智中高前で下車して信号を渡り、下の案内図、赤の矢印の所に南公園と書かれた看板があり、ここから公園へ行って行きました。出入口は何カ所もありますが、ここが一番高いところで、奥に行く程、坂を下る方向に行きます。入ると“林”と言うよりは“森”と言った方が良いでしょう。鬱蒼としておりますが道路上には光が差し込んでいます。園内の道路は整備されておりますがひとけはありません。



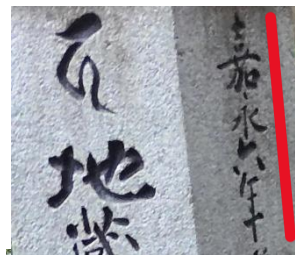
少し行くと、“飢人地藏菩薩”と書いた案内板が目にとまりますので、脇の獣道より少し程度が良い道へ入ってしばらくすると菩薩が見えてきます。

説明板には享保 17 年(1732 年)、18 年の大飢饉の際、この周辺で餓死した人達の霊を慰める為に建てられた供養塔と地藏菩薩であると記されておりますが、供養塔の側面には嘉永六年(1853 年)と刻まれております。享保と嘉永と時代が違うのはなぜだか分かりません。供養塔が再建立されたのかも分かりません。

世界では戦争や内紛、気候変動、経済的要因で飢饉が起きています。日本でも今年はお米不足が起きました。飢饉にならないようにするには政治がやるべきこと、一人一人がやるべきことがあると思います。

元の道に戻り進んで行くと下写真のロータリーになった分岐点があり正面の道を進んで行くと中山記念碑があります。

中山記念碑は孫中山(孫文)の生誕 100 年を記念して建てられたそうです。



ロータリー



中山記念碑



中山記念碑廻り



中山記念碑廻り 藤棚

中山記念碑の近くにはベンチが多くあり、ここに腰掛けて森林に癒やされては如何でしょうか。藤棚の下にもベンチがあります。

さらに、中山記念碑から少し行くと、階段があり、右写真の様な場所があります。周囲にベンチがありますのでここでも休息出来ます。



南公園がある小高い一帯は江戸時代、大休山(おおやすみやま)と呼ばれていました。ここからの眺めは具原益軒が”筑前国続風土記”の中で景勝地として有名な須磨や明石なども及ばないだろうと絶賛しています。江戸時代は木立が少なく現在より開けていて眺望が良かったと思われます。現在山頂部は高い木立に遮られていますが西側展望台に行くと 360 度に広がる景観を楽しむことが出来ます。

南公園西展望台

南公園案内図の左側に南公園西展望台があります。道路側から階段を上がって行き、さらに今度は展望台の階段を上り、やっと頂上に着きます。

天気が良ければ苦労して階段を上ってきた甲斐があったと思える景観が広がっております。



西側展望台



展望台頂上



北方向眺望(中央の丘陵が西公園)



北東方向眺望



南方向眺望

デュオ柏原方向ですが見えません

東公園、西公園、南公園ともに樹木が多いところなので四季折々に見せる景観が違うと思います。お近くに行かれる機会がありましたら是非お立ち寄り下さい。

余談ですが動物園には随分と広くなった象舎があり、ミャンマーから送られてきた象が元気に飼育されております。内紛が起きているミャンマーにいるより日本に来て良かったと象が思っているか、どうか分かりませんが折角日本に来たのだから長生きしてほしいと思います。こちらも一度ご来園してご覧下さい。

